

国語科学習指導案【自閉症・情緒障害特別支援学級第2学年】

- 1 日 時 令和6年11月1日（金）1校時
- 2 学 年 自閉症・情緒障害特別支援学級 第2学年（2名）
- 3 単元名 じんぶつのようなすやたからものを思いうかべて手紙を書こう
「みきのたからもの」

4 単元の見目標

- (1)言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることができる。
〔知識及び技能〕(1)オ
- (2)場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C (1)エ
- (3)言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

5 単元で取り上げる言語活動

人物の様子や宝物を思い浮かべながら登場人物に手紙を書く。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。 (1)オ	①「読むこと」において、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。 (C (1)エ)	①積極的に場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かして登場人物に手紙を書こうとしている。

7 単元について

(1)教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編第1学年及び第2学年〔知識及び技能〕(1)「オ 身近なことを表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすること。」及び〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)「エ 場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像すること。」に基づいて設定するものである。

本教材は、登場人物「みき」が経験した、物語に描かれている一連の出来事が「たからもの」だと受け取れるように表現されている。「みきのたからもの」とは何なのか、その宝物をどうしたいのか、児童自身の宝物と比較しながら考えやすい。さらに、「たからもの」という言葉が、目に見える「物」だけでなく「思い出」や「経験」といった内容も表し得るという、児童の直接経験だけでは得られにくい理解にもつなげることができる。また、登場人物が二人しかおらず会話文が多いので、登場人物の言動を表す表現に着目しながら、誰が、どんなことをしたのか、そのときの表情・口調・様子はどうだったのか、なぜ登場人物は物語中の行動を取ったのか等について、場面の様子と結び付けて想像しやすい特徴を有している。

以上のことから、言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにすることや、場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像することに適した教材であると言える。

(2)児童観

(略)

(3) 指導観

① 育成したい資質・能力を明確にした単元構想

「じんぶつのようなすやたからものを思いうかべて手紙を書こう」という言語活動を設定し、「みきのたからもの」を読み、叙述と結び付けて想像したことをお手紙メモに書いていく。登場人物の表情や会話の言い方を想像することで物語を読み深めていくことや、最後にみきにお手紙を書くという学習の見通しをもたせる。また、自分の宝物と比べることでそれぞれの考え方や言葉の意味には違いがあるということに気付くことができるようにする。

「言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き語彙を豊かにする」ことに関して、本単元では、読み取りの中で、具体的に言葉を取り上げながら何を表しているかを丁寧に考えるという工夫を行う。二人で言葉の意味について交流しながら学習を進めることで、より広く深く考え、言葉を捉えることができる。相手に伝えるために言葉を選んだり、付け加えたりすることで、言葉の意味が具体的にとらえられ、使うことができるようになると考える。さらに、自分だけの考えではなく二人の考えとなることで、質問の意図に合わせることができ、自信をもって伝えることができる。と考える。

次に、「場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する」ことに関して、役割演技をしながら考えさせていく。その時にどんな声、表情でいたのか、どのように動いていたのかを考えさせることで、具体的に想像が広がっていくと考える。また、役割を入れ替えることで、捉え方の違いが見つかり、その違いについて、本文に戻りながら考えることで、より想像が広がっていくと考える。

② 思考の方法の活用

みきが秘密にした宝物を考えるために、思考の方法【比べる】を活用する。その際に、自分の宝物について想起しながら、みきのしまっておくという行動の理由、もしもみんなに話したとしたらどうなるかを想像し、伝え合う。出てきた意見を比べることで、みきの表情や様子、行動の理由がより具体的に想像できると考える。

8 単元の指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	・指導上の留意点	◇評価規準 (評価方法)
【本質的な問い】 ○物語の登場人物の様子を具体的に想像することのよさは何だろうか。 【単元を貫く問い】 ○みきはなぜ、たからものをひみつにしておきたいのだろうか。				
一	1	・みきのたからものを読み大まかな内容を把握する。 ・疑問を出し、単元計画を立てる。	・だれがどんなことをしたかを確認する。 ・不思議なことやよくわからないことを出し合い、単元計画につなげる。	
二	2	みきとナニヌネノンの様子を読み取る。 ・カードを拾った時の様子を読み取る。	・書かれていることばの意味について二人で意見交換をして丁寧に確認しながら、場面や人物の様子を読み取っていく。	◇〔知・技〕言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。(発言)

二	3 4 5 6 (本時)	・出会ったときの様子を読み取る。 ・「さようなら」と言った時の様子を読み取る。 ・別れの時の様子を読み取る。 ・その後の様子を読み取る。【比べる】	・役割演技をすることでその時の人物の様子を捉えやすくする。 ・それぞれの時間の終わりにお手紙メモを書き、最後の手紙につなげる。	◇〔思・判・表〕場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像している。(発言・お手紙メモ)
三	7 8	・自分の宝物と比べながらみきに手紙を書く。【比べる】 ・書いた手紙を交流し、学習をふり返る。【比べる】	・自分の宝物についての考え方とみきの宝物についての考え方を比べながら書くことができるように、ワークシートを用意する。 ・お互いの手紙を読み合い、宝物に対する考え方について感じたことを交流する。	◇〔態〕積極的に場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像し、今までの学習を生かして登場人物に手紙を書こうとしている。(手紙)

9 評価の具体

評価規準 (思・判・表)	「おおむね満足できる」状況 (B)
①場面の様子に着目して、②登場人物の行動を具体的に想像している。	みきちゃんはナニヲネノンと出会ったことをとても大切に思っているんだね。だって、①だれにも話さずに、だまっているんだからね。ぼくだったら話していたかもしれないな。みんなに知ってもらいたいもの。でも、みきちゃんが①そっとしまっておきたいと思った気持ちもわかったよ。もし話したら「わたしのもの」ではなくなってしまうかもしれないし、いつもしんぱいしないといけなくなるもんね。だれかにとられたりしないように①小さな石をつくえの引き出しに大事にしまっているんだね。②だれにも知られたくないくらい大切なんだとわかったよ。おわかれの時にはさみしくて、小さな石をぎゅつとにぎって、②泣いていたと思うよ。小さな石も出会った思い出も、これからも大切にしていね。

国語科学習指導案【自閉症・情緒障害特別支援学級第4学年】

- 1 日 時 令和6年11月1日（金）1校時
- 2 学 年 自閉症・情緒障害特別支援学級 第4学年（1名）
- 3 単元名 登場人物になりきって手紙を書こう
「ごんぎつね」

4 単元の目標

(1)様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。

〔知識及び技能〕(1)オ

(2)登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ

(3)言葉がもつよさに気付くとともに、幅広く読書をし、国語を大切に、思いや考えをつたえ合おうとする。
「学びに向かう力、人間性等」

5 単元で取り上げる言語活動

登場人物になりきって、相手に気持ちを伝える手紙を書く。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。 (1)オ	①「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。 (C(1)エ)	①積極的に登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、今までの学習を生かして手紙を書こうとしている。

7 単元について

(1)教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編第3学年及び第4学年〔知識及び技能〕(1)「オ 様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解し、語彙を豊かにすること。」及び〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)「エ 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像すること。」に基づいて設定するものである。

本教材には、直接登場人物の気持ちが書かれるだけでなく、気持ちを読み取ることができる言葉がたくさん使われている。場面を追うごとに中心人物の行動や登場人物の距離が変化していき、場面に描かれている挿絵などにもその様子が表れている。また、最後の場面では、その情景描写から二人の気持ちが想像でき、感情移入して考えることができる。以上のことから、気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて読み取るのに適した教材であると言える。

(2)児童観

(略)

(3)指導観

①育成したい資質・能力を明確にした単元構想

「登場人物になりきって手紙を書こう」という言語活動を設定し、叙述をもとに中心人物の行動や気持ちを具体的に想像していく。登場人物の表情や人物同士の距離を想像することで物語を読み深めていくことや最後には中心人物になりきって手紙を書くという学習の見通しをもたせる。また、

それぞれの場面の人物の様子を比べることで直接的な表現だけでなく情景描写などでも行動や気持ちを表すことができるということに気付くことができるようにする。

「様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにする」ことに関して、本単元では、人物の言動が表れた叙述から具体的な様子や気持ちを想像する。直接的な表現は理解しやすいが、情景描写や比喩的な表現から登場人物の気持ちを推し量ることは苦手であるため、挿絵を照応させながら叙述を読んだり、必要に応じて簡単な図に表したりしながら登場人物の気持ちが想像できるようにする。こうした手立てを講じることで、様子や行動、気持ちや性格を表す表現の豊かさに気付かせたい。

次に、「登場人物の気持ちの変化や性格について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像する」ことに関して、登場人物の距離を読み取るために、兵十とごんのイラストを動かしながら、場面の様子を捉えるようにする。また、その時の色や出てくるものについて考えることで、気持ちも表すことができるということをつまみやすくしていく。

②思考の方法の活用

人物の気持ちの変化を読み取るために、思考の方法【比べる】を活用する。その際に、場面ごとのごんと兵十の距離を考えることで、ごんの気持ちに気付かせるという工夫を行う。場面を追うごとに兵十が兵十に近づいており、気付いてほしい、分かってほしいという考えにつなげることができる。

8 単元の指導計画（8時間扱い）

次	時	学習活動	・指導上の留意点	◇評価規準 (評価方法)
【本質的な問い】 ○気持ちの変化を具体的に想像することはどんな良さがあるのだろうか。 【単元を貫く問い】 ○ごんと兵十の思いは通じあったのだろうか。				
一	1	- 本文を読み、大まかな内容を把握する。 - 疑問を出し、単元計画を立てる。	よくわからないところや不思議に思ったところを出させ、疑問を解決するために何を読んでいけばよいかを確認する。	
二	2	ごんの様子や気持ちを読み取る。 ・いたずらをしているときの様子や気持ちを読み取る。【比べる】	- 直接的な文章表現だけでなく、場面絵にも目を向ける。 - 場面が進むにつれて変化していくごんの気持ちが捉えられるように学習の足跡を掲示する。 - ペーパサートを使って二人の位置や距離感を捉えやすくする。 - 二人の距離を考えた掲示を残しておき、変化を捉えやすくする。	◇〔知・技〕様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。(発言・ノート) ◇〔思・判・表〕登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。(発言・ノート)
	3	・後悔したときの様子を読み取る。【比べる】		
	4	・償いを始めたときの様子や気持ちを読み取る。【比べる】		
	5	・後をつけていったときの様子や気持ちを読み取る。【比べる】		

二	6 (本時)	・償いを続けるときの様子や気持ちを読み取る。 【比べる】		
	7	・最後の場面でのごんと兵十の気持ちを想像する。	・最後の場面では視点が転換し、兵十中心に書かれていることから、兵十の気持ちの変化も確認する。 ・これまでの二人の実際の距離と心の距離について考え、変化していく様子をまとめる。	
三	8	・ごんになりきって手紙を書き、学習をふり返る。	・読み取ったことをもとにごんから兵十への手紙を書く。	◇〔態〕積極的に登場人物の気持ちの変化や情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、今までの学習を生かして手紙を書こうとしている。(手紙)

9 評価の具体

評価規準 (思・判・表)	「おおむね満足できる」状況 (B)
登場人物の気持ちの変化について、①場面の移り変わりと結び付けて②具体的に想像している。	(ごんから兵十へ) 兵十よ。①うなぎをいたずらでにがしてしまっでごめんなさい。おっ母にと思っていたなんて知らなかったんだ。そうしきの列を見た時に分かって申し訳ないと思い、それから①つぐないとして自分ができることを考えて、山で拾った栗やまつたけを持って行ったんだ。兵十は、①おれと同じでひとりぼっちになった。だから、②なかよくなりたいと思っていたんだよ。それなのに神様からなんて話をしていたから、②気付いてほしくて、あの日は家の中に入ったんだ。そこで兵十にうたれたことはかなしいけど、②自分がしていたと分かってくれたからよかったよ。

国語科学習指導案【自閉症・情緒障害特別支援学級第6学年】

- 1 日 時 令和6年11月1日（金）1校時
- 2 学 年 自閉症・情緒障害特別支援学級 第6学年（1名）
- 3 単元名 「やまなし」の世界を絵で表し、説明しよう
「やまなし」

4 単元の目標

- (1) 比喩や反復などの表現の工夫に気付くことができる。〔知識及び技能〕(1)ク
- (2) 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができる。
〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)エ
- (3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養おうとする。〔学びに向かう力、人間性等〕

5 単元で取り上げる言語活動

表現の効果に着目しながら感想画の説明を書く。

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。((1)ク)	①「読むこと」において、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。 (C(1)エ)	①粘り強く表現の効果について考え、学習の見通しをもって、絵で表してその説明を書こうとしている。

7 単元について

(1)教材観

本単元は、小学校学習指導要領（平成29年度告示）解説 国語編第5学年及び第6学年〔知識及び技能〕(1)「ク 比喩や反復などの表現の工夫に気付くこと。」及び〔思考力、判断力、表現力等〕C読むこと(1)「エ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすること。」に基づいて設定するものである。

本教材は五月と十二月の2枚の幻灯を表現した文章である。作者である宮沢賢治の独特な表現や造語、オノマトペによって、物語の世界が表現されており、読み手はその意味、世界観、作品全体で表現されていることについて考えながら読み進めていくであろう。このことから、物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに適した教材であると言える。

(2)児童観

（略）

(3)指導観

①育成したい資質・能力を明確にした単元構想

「「やまなし」の世界を絵で表し説明しよう」という言語活動を設定し、「やまなし」を読み、叙述と結び付けて想像したことを絵で表していく。叙述から分かることを確認し、読み取ったことを絵に表すことで物語を読み深めていくことや最後には五月と十二月の絵を合わせて捉えたことを説明するという学習の見通しをもたせる。また、比喩や繰り返し、オノマトペなどの表現の工夫によりどのような感じるのかを自分の受け取ったことを基に考えさせることで、表現の効果に気付くことができるようにする。

「比喩や反復などの表現の工夫に気付く」ことに関して、本単元では、作品全体の構成について

考えさせたりオノマトペや作者の造語に着目させ、似た意味の言葉に言い換えたり、自分でも作ってみたりするという工夫を行う。

次に、「物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりする」ことに関して、感想画を描き、表現の効果に着目しながら説明を書くという言語活動を設定することで、「やまなし」の世界観を捉え、物語の全体像について考えさせることができると考える。また、様々な表現を見つけ、そこからイメージすることを児童が得意な絵で表現することでその効果について考えることができ、自分の言葉として表現することができるようになると思う。

②思考の方法の活用

作者の意図を捉えるために、思考の方法【比べる】【つなげる】を活用する。五月と十二月のそれぞれに出てくるものが何を表しているのか、「やまなし」全体で何を伝えたかったのかを考えさせる。まず、出てくるものを対比させて考え、さらに二つの月をつなげることで作品全体の世界をとらえやすくなり、作品の主題に迫ることができると考える。

8 単元の指導計画（6時間扱い）

次	時	学習活動	・指導上の留意点	◇評価規準 (評価方法)
【本質的な問い】 ○表現を工夫することで思いや考えが伝わりやすくなるのだろうか。 【単元を貫く問い】 ○宮沢賢治は何を表したかったのだろうか。				
一	1	・やまなしを読み、感じたことをノートに書く。 ・疑問を出し、学習計画を立てる。	・感想画につなげるために、全体の様子と心に残ったことや人物について考えるように促す。	
二	2	・単元の流れを確認し、どんなことを絵に表したのか、想像しながら文章を読む。	・描いた後に感想画の説明を書くことも確認する。	
	(2時間)	(図画工作科) 文章を読んで感じたことを絵(感想画)に表す。	国語の時間に想像したことが表せるよう、教材文だけでなく、国語の時間にメモしたことも見返しながら絵に表せるようにする。 画材は、絵具だけでなく、色紙、セロハン、お花紙などを準備しておき、これ以降、国語の時間に想像したことが感想画に付け加えられるようにしておく。	
三	3	月ごとの内容を読み取る。 ・「五月」の言葉や表現をもとに、谷川の情景やかにかのの様子を読み取る。	・かにやかわけみの絵を動かしながら場面の様子を確認していく。	

三	4 (本時)	・「十二月」の言葉や表現をもとに、谷川の情景やかにかにの様子を読み取る。【比べる】	・感想画に表す場面をどこにするかを決め、なぜその場面を選んだのか文章と合わせて確認していく。 ・動かしている様子や説明を動画に残していく。	◇〔知・技〕 比喻や反復などの表現の工夫に気付いている。(発言・ノート・動画)
	5	・「五月」と「十二月」の場面を比べて、対比されている表現を見つける。【比べる】【つなげる】	・「五月」と「十二月」を観点に沿って対比する。	◇〔思・判・表〕 物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりしている。(発言・ノート)
四	6	・表現の効果について考えたことも併せて感想画の説明を書き、学習を振り返る。	・絵に表した場面の様子や選んだ理由について、本文の表現を引用しながら説明するように確認する。	◇〔態〕 学習の見通しをもって、粘り強く表現の効果について考え、絵で表してその説明を書こうとしている。(ノート)

9 評価の具体

評価規準 (思・判・表)	「おおむね満足できる」状況 (B)
物語の①全体像を具体的に想像したり、②表現の効果を考えたりしている。	やまなしの2つの幻灯は賢治の考える世界です。①こわい世界と幸せな世界。どちらも現実の世界と通じています。②賢治の独特な表現は不思議な世界観を作り、その世界へ入り込む手助けをしています。②水の中に降ってくる、光のあみなどの美しい表現により、賢治が考える理想の世界をイメージさせてくれます。また、②オノマトペによりその世界がさらに生き生きと描かれ、今にもうごき出しそうな感じがします。だから五月は①暗くて寂しい中にも明るい光が差し込む世界を表すためにかわせみが魚を捉える場面、十二月は①自然の恵みが与えられる幸せな世界を表すために、やまなしを追いかけるかにかの親子の場面を描きました。

10 学習の流れ（6 時間目／全 8 時間）

- (1) 本時のねらい
- みきが秘密にした宝物は何かを考えることができる。
- (2) 本時の展開
- (1) 本時のねらい
- ごんが神様の仕業だと思われていても償いを続けた気持ちを読み取る
ことができる。
- (2) 本時の展開
- (1) 本時のねらい
- 十二月に表されたものが何かを考え自分の言葉で説明することができる。
- (2) 本時の展開

学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準（方法）	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準（方法）	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準（方法）
1. 音読する。	・ 最初から最後までを音読する。 ・ 秘密の宝物は何かを考えながら P 68 L 9 から最後までを確認する。	1. 音読する。	・ P 25 L 10～P 29 L 11 まで音読する。	1. 本時の課題をつかむ。	
2. 本時の課題をつかむ。		2. 本時の課題をつかむ。		十二月はどんな世界を表しているのだろう。	
みきの「ひみつのたからもの」ってなんだろう。		ごんはなぜ、つぐないを続けたのだろう。		2. 人物や出てくるものを 確認し、何を表している のかを考える。	・ 五月の場面で考えたことを想起させ、同じように 考えさせる。 ・ 考えてほしいことをクラスルームにメッセージと して残しておき、自分で確認できるようにしておく。
3. みきが秘密にしたいと 思ったことが分かる部分 を見つける。	・ 初めの考えをノートに書かせておく。 ・ 見つけた部分に傍線を引くように指示す る。	3. 神様の仕業だと言われ た時のごんの気持ちを考 える。	・ 初めの考えをノートに書かせておく。 ・ 書かれている部分を見つけ、線を引く。 ・ そこからこのあとどうすると考えられるか を想像し、実際の場面を確認する。		
4. 宝物は何かについて考 え、交流する。	・ 見つけたら他にもないかを考えさせる。 ・ 宝物だと思うものはノートに書かせる。 ・ 2 人で相談しながら宝物は何かを見つける ようにさせる。 ＜本時で扱う思考の方法＞【比べる】 手立て：「しまう」と「いれる」とい うことばや、もしも話したらどうなる かを比べて考える。 「入れるではなくしまうという言葉が 使われているので、出会ったことと 小さな石の 2 つともが宝物だと思い ます。」	4. つぐないを続けていく ごんの気持ちを想像す る。	・ これまでの学習の足跡が確認できるように クラスルームに板書を残しておく。 ・ ごんの様子がどのようにかわっているの か、これまでの様子と比べる。 ・ ごんと兵十の距離感についてこれまで考え てきたことを写真に撮っておき、振り返る ことができるようにしておく。 ・ 最後にくりをもっていった時の様子を確認 し、それまでの様子と比べる。		＜本時で扱う思考の方法＞ 【比べる】 手立て： 五月に出てきたものや読み取ったこと と十二月に出てくるものを比べて考える。 「十二月にはやまなしがでてきて、かにのお父 さんが話をします。五月ではかわせみという こわい生きものが出てきましたが、十二月は やまなしという喜びができました。さらに お父さんの話から、待つことでうれしいこと があると知ることができるので幸せな世界を 十二月の幻灯であらわしているのだと思いま す。」

学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準（方法）	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準（方法）	学習活動	・指導上の留意点 ◇評価規準（方法）
5. なぜ秘密にしたのかを考え、交流する。	＜本時で扱う思考の方法＞【比べる】 手立て：もしも話したらどうなるかを比べて考える。 「話さなければいい思い出だけど、もしも話してしまうとうそだと言われたりそんなことないと言われたりして、かなしい思いをするかもしれないからひみつにしたのだと思います。」 ◇〔知・技〕言葉には意味による語句のまとまりがあることに気付き、語彙を豊かにしている。（発言）		＜本時で扱う思考の方法＞【比べる】 手立て：これまでの行動や兵十との距離をくらべて考える。 「最初はうなぎを盗んだ償いだったけど、自分と同じひとりぼっちの兵十に自分がしていると分かってほしいと思って続けたと思います。」 ◇〔思・判・表〕登場人物の気持ちの変化について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（発言・ノート）	3. 置き換えるとしたらどうかを考える。	・ラムネのびんの月光、ぽかぽか流れていく、もかもか集まるなどの表現を置き換えるとしたらどう表現するかを考える。 ・なぜそのように置き換えたのかを説明させる。 ◇〔知・技〕比喩や反復などの表現の工夫に気付いている。（発言・ノート）
6. 本時のまとめをする。	みきのひみつのたからものは、ナニヌネノンに出会ったことと、もらった小さな石。	5. 本時のまとめをする。	ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。	4. 本時のまとめをする。	十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。
7. お手紙メモを書く。	・書き出しを指定し、続きは自分の言葉でまとめを書かせる。 ・みきの行動に対して考えたことをお手紙メモに書くように促す。	6. 学習を振り返る。	・書き出しを指定し、続きは自分の言葉でまとめを書かせる。 ・ごんと兵十、二人の距離を比べて考えたことがどうだったかを振り返りに書くように確認する。	5. 学習を振り返る。	・書き出しを指定し、続きは自分の言葉でまとめを書かせる。 ・五月と十二月をくらべて考えたことでどうだったかを振り返りに書くように確認する。
8. 学習を振り返る。	・初めの考えと最後で自分の考えがどのように変わったのか、なぜ変わったのかを振り返りで書くように確認する。				

11 板書計画

③

みきのひみつのたからものは、ナニヌネノンに出会ったことともらった小さな石。

⑦

みきの「ひみつのたからもの」ってなんだろう。

本文

しまっておきたい
できことなのです。
小さな石が、
だいじにしまつて
あります

大さわざになる
うそつきと言われるかもしれない
みんなには言いたくない

⑧

みんなには言いたくない

⑨

みんなには言いたくない

⑩

みんなには言いたくない

⑪

みんなには言いたくない

⑫

みんなには言いたくない

⑬

みんなには言いたくない

⑭

みんなには言いたくない

⑮

みんなには言いたくない

⑯

みんなには言いたくない

⑰

みんなには言いたくない

⑱

みんなには言いたくない

⑲

みんなには言いたくない

⑳

みんなには言いたくない

㉑

みんなには言いたくない

㉒

みんなには言いたくない

㉓

みんなには言いたくない

㉔

みんなには言いたくない

㉕

みんなには言いたくない

㉖

みんなには言いたくない

㉗

みんなには言いたくない

㉘

みんなには言いたくない

㉙

みんなには言いたくない

㉚

みんなには言いたくない

㉛

みんなには言いたくない

㉜

みんなには言いたくない

㉝

みんなには言いたくない

㉞

みんなには言いたくない

㉟

みんなには言いたくない

㊱

みんなには言いたくない

㊲

みんなには言いたくない

㊳

みんなには言いたくない

㊴

みんなには言いたくない

㊵

みんなには言いたくない

㊶

みんなには言いたくない

㊷

みんなには言いたくない

㊸

みんなには言いたくない

㊹

みんなには言いたくない

㊺

みんなには言いたくない

㊻

みんなには言いたくない

㊼

みんなには言いたくない

㊽

みんなには言いたくない

㊾

みんなには言いたくない

㊿

みんなには言いたくない

11 板書計画

③

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

④

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑤

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑥

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑦

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑧

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑨

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑩

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑪

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑫

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑬

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑭

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑮

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑯

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑰

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑱

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑲

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

⑳

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉑

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉒

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉓

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉔

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉕

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉖

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉗

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉘

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉙

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉚

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉛

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉜

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉝

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉞

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㉟

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊱

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊲

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊳

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊴

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊵

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊶

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊷

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊸

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊹

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊺

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊻

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊼

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊽

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊾

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

㊿

ごんは、兵十に自分がしていることを分かってほしいと思ってつぐないを続けた。

11 板書計画

③

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

④

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑤

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑥

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑦

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑧

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑨

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑩

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑪

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑫

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑬

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑭

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑮

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑯

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑰

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑱

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑲

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

⑳

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉑

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉒

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉓

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉔

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉕

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉖

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉗

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉘

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉙

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉚

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉛

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉜

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉝

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉞

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㉟

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊱

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊲

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊳

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊴

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊵

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊶

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊷

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊸

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊹

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊺

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊻

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊼

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊽

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊾

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。

㊿

十二月は自然の恵みがある幸せな世界を表している。